

令和5年度 原村公共交通再編計画(案)

- 1.経過
- 2.利用実績と今後
- 3.本格導入に向けて
- 4.スケジュール

1. 經過

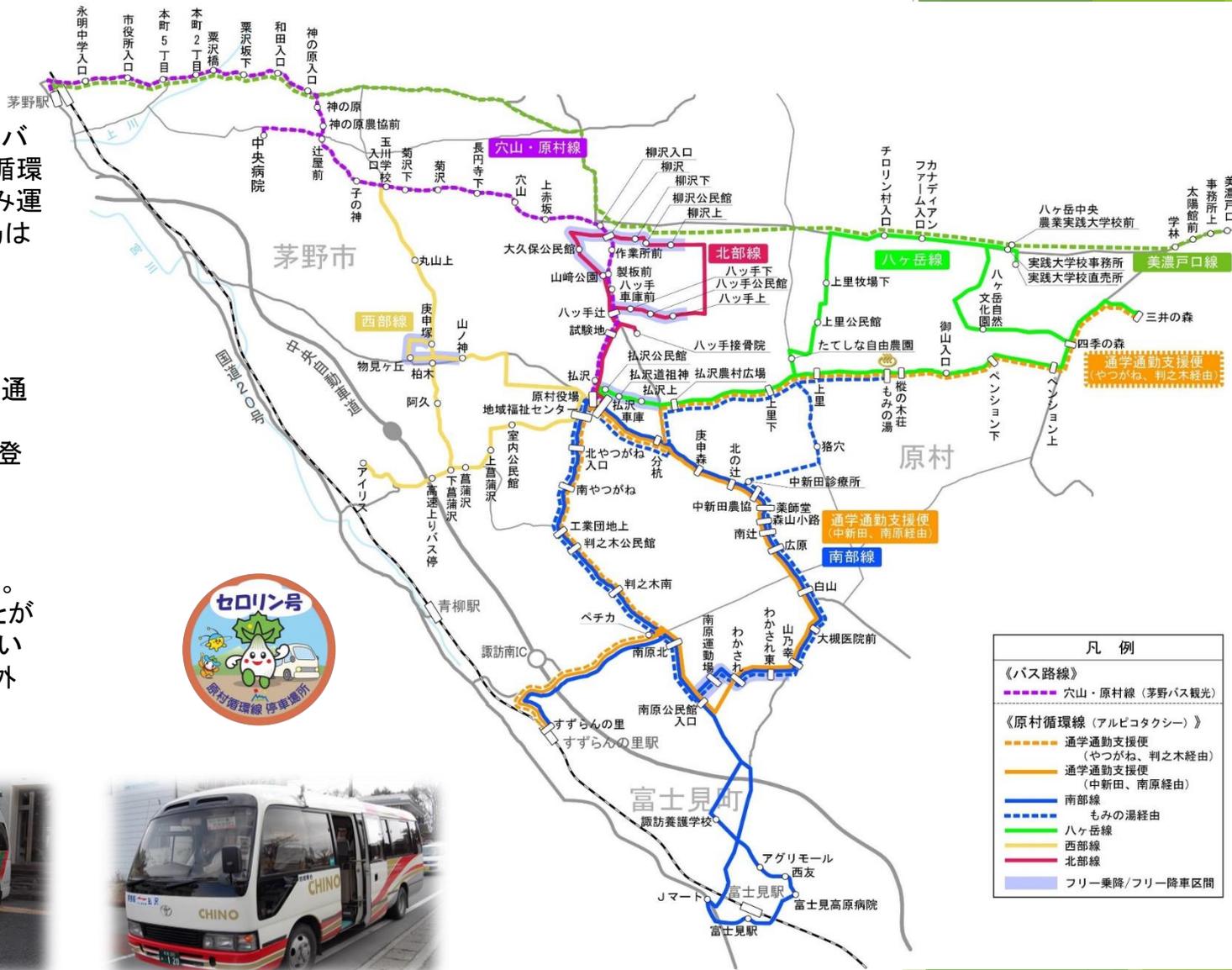
1. 経過

【交通の現状】

■現在、原村を通過しているバスは「穴山・原村線」、「原村循環線(セロリン号)」、特定日のみ運行する「美濃戸口線」(事務局は茅野)が存在。

(その他)
「通学臨時便」
小中学生の遠距離通学者の通学のためのバス。
運行日、便数:登校日のみ。登下校3便

「福祉輸送サービス」
社会福祉協議会の運行事業。
公共交通機関を利用することが困難な高齢者及び心身障がい者の福祉輸送サービスで村外への移動も可能。



原村循環線 (セロリン号)
アルビコタクシー(株)

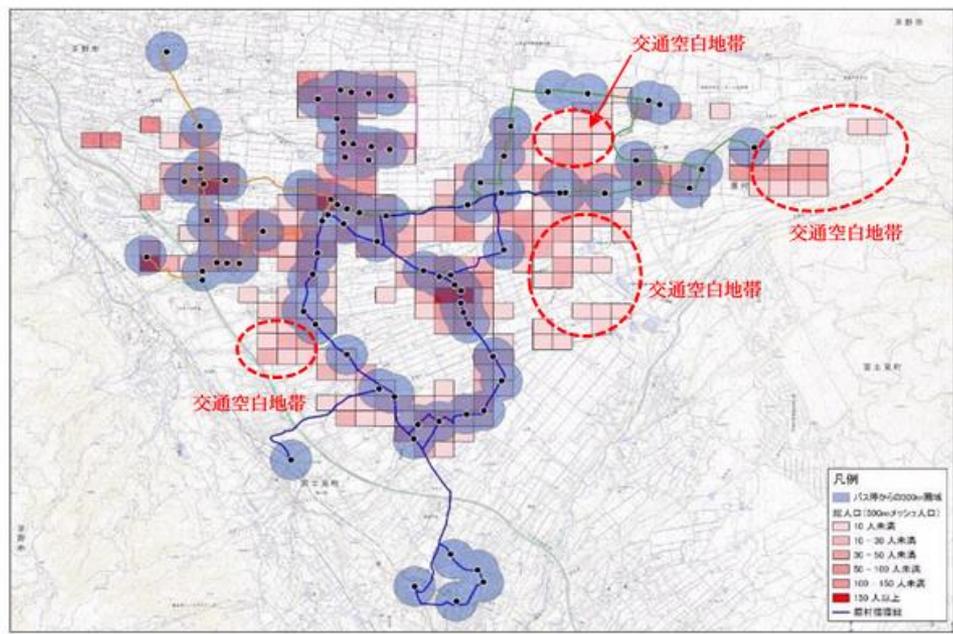


穴山・原村線 茅野バス観光(株)

【課題】

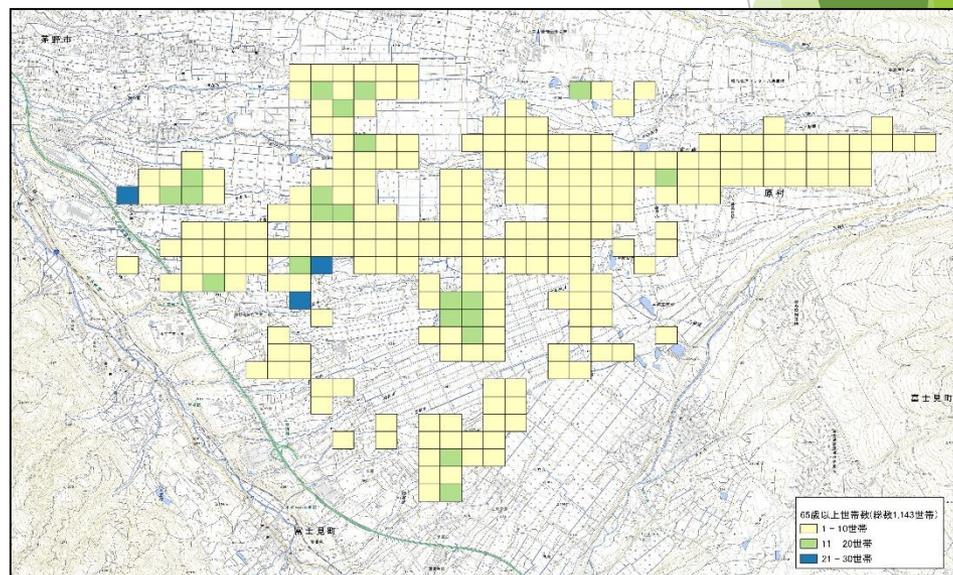
1 移動手段の確保

右図は、人口分布とバス停から半径1km圏内を表す図であり、公共交通空白地帯が存在している。



2 村内全域に広がるニーズの広範囲化

右図は、65歳以上の高齢者世帯を示しており、ほぼ村内全域に分布している。当村の高齢者は人口の3割以上を占めており、今後ますます増加することが予想される。



3 利便性と利用率の低さ、固定された路線及びダイヤによる移動制限

非効率経路による長時間乗車やダイヤに合わせた滞在時間や目的地の制限が発生することにより、一部では1日あたりの利用者数が年平均1.0人に満たない路線もある。

4 外出機会の創出

当村には、タクシーの営業所や民間バスなどが通っておらず、公共交通のみが移動手段であり、利便性が低いこと、外出機会を創出できていない。

5 公共交通維持にかかる財政負担

当村では、現状2つのバス路線を維持しているが、運行に係る収支は大幅な赤字となっている。



AI乗合オンデマンド交通「のらざあ」の導入

運行ルートの高自由度なAIオンデマンド交通を導入することで、公共交通空白地帯の解消や、現在の定時定路線の抱える課題等の解決を目指す。

原村公共交通実証運行
AI乗合オンデマンド交通
原村の公共交通が「のらざあ」から予約できます

一般・1乗車 300円～

- 電話やアプリで利用できます
事前登録と予約があれば住民でなくても利用できます。
- 行きたい時に、行きたい場所へ
アプリや電話で申し込むと、目的地までの最適ルートや乗合をAI(人工知能)が判断します。時刻表はありません。
- 村内の多くの場所で乗降できます
セロリン号よりも乗降ポイントが増えます。

運行車両イメージ



運行エリア・乗降場所

- 既存バス停
- 既存追加エリア
- 茅野市エリア

市内の既存バス停(●)付近と、新たな仮想バス停(●)がミーティングポイント(乗降場所)となります。市内ではポイント間で好きな場所に移動ができます。茅野市と原村の相互乗り入れはできません。(茅野市では諏訪中央病院・富士見町では富士見高原病院のみ、原村から目的地にできます。)



エリア間の行き来は諏訪中央病院のみ可能



バス停位置の詳細はこちら



- 新バス停 (アプリ上のみ)
- 既存バス停 (バスの停車スペースを前後10mほど開けて車をお待ち下さい)

どちらのバス停もアプリではこのように表示されます

※新たな仮想バス停(●)はアプリ上のみ表示されるもので、実際にバス停があるわけではありません。ポイント付近で「のらざあ」をお待ちください ※乗降ポイントは一部変更になる場合があります。

NEWS! 1. 期間延長 運行期間を5月末まで延長!

NEWS! 2. バス停追加 富士見高原病院に行ける!

NEWS! 3. 割引拡充 中学生以下と65才以上の方は割引運賃!

※富士見高原病院バス停と割引は4月3日(月)から適用

実証運行期間 令和4年10月31日(月)～

1. 期間延長 令和5年5月31日(水)

受付・運行時間 平日・土曜

8:30～17:00 (最終乗車16:30)

当日予約での始発は9:30となります。

乗車1時間前までに予約が必要です。

最終乗車時間はご予約の距離により前倒しになる場合があります。



配車予約はアプリまたは電話で

コールセンター TEL.0266-70-0710

※通話料がかかります

アプリ登録などでお困りの方は役場窓口へご相談にお越し下さい

原村公共交通実証運行 AI乗合オンデマンド交通 原村の公共交通「のらざあ」の利用方法について

料金	支払方法
距離 3km未満 300円	アプリ予約 クレジットカード・現金
3km以上 5km未満 500円	電話予約 現金
5km以上 700円	



アプリを起動 利用者登録 乗降場所の設定 乗車予約

3. 割引拡充 割引サービス

登録時に設定または同乗者設定時の年齢により

高齢者(75歳以上→65歳以上へ対象を拡大※)	一律300円
障がい者(介助者1名も含む)	半額(上限300円)
子ども(小学生→小学生・中学生へ対象を拡大※)	半額
子ども(未就学児)	無料

割引の適用方法や詳細はホームページをご覧ください ※65～74歳・中学生の方への割引は4月3日(月)から適用

アプリを利用の方

ダウンロードはこちら↓

1. アプリを起動
2. 利用者登録 (初回のみ)



登録に必要な情報

氏名・生年月日・性別・住所・メールアドレス・電話番号

乗車予約

利用の1週間前から1時間前まで予約できます

当日利用の最終受付は15時30分まで

最終受付は予約時の距離により、前倒しになる場合があります

2. 予約内容の設定

1. 出発地の設定、目的地の設定
 - ・住所や施設名、登録した場所から設定
 - ・地図上のピンを動かして設定
2. 利用人数の設定
 - ・1人の場合は、操作不要
3. 希望時間(出発時間または到着時間)を設定

3. 予約内容の確認、予約完了

乗車時間などに問題なければ予約を確定

4. 乗車場所へ移動

- 予約時間までに乗車場所へ移動
- 乗車する車両の情報はアプリで確認

5. 「のらざあ」車両への乗車

6. 料金の支払い
 - 現金払いの方は乗車時にお支払い
 - クレジットカード払いの方はアプリ内で自動決済し
 - そのまま降車

キャンセルや変更もできます (お早めにご連絡・アプリで操作ください)

電話で利用の方

土曜 平日 8:30～17:00

1. コールセンターへ電話 TEL.0266-70-0710
2. 利用者登録 (初回のみ)

登録に必要な情報

氏名・生年月日・性別・住所
電話番号(携帯電話、なければ固定電話)

乗車予約

利用の1週間前から1時間前まで予約できます

当日利用の最終受付は15時30分まで

最終受付は予約時の距離により、前倒しになる場合があります

2. 希望内容の連絡
3. 登録情報(お名前、電話番号)の確認

- ・乗りたいところ(出発地)
- ・行きたいところ(到着地)
- ・利用人数
- ・希望時間(出発時間または到着時間)

4. 予約内容の確認

乗車場所、乗車時間、料金を確認

5. 予約完了

乗車時間などに問題なければ予約を確定
電話利用の方はオペレーターとのやりとりで乗車場所を確認

6. 乗車場所へ移動

7. 「のらざあ」車両への乗車

8. 料金の支払い

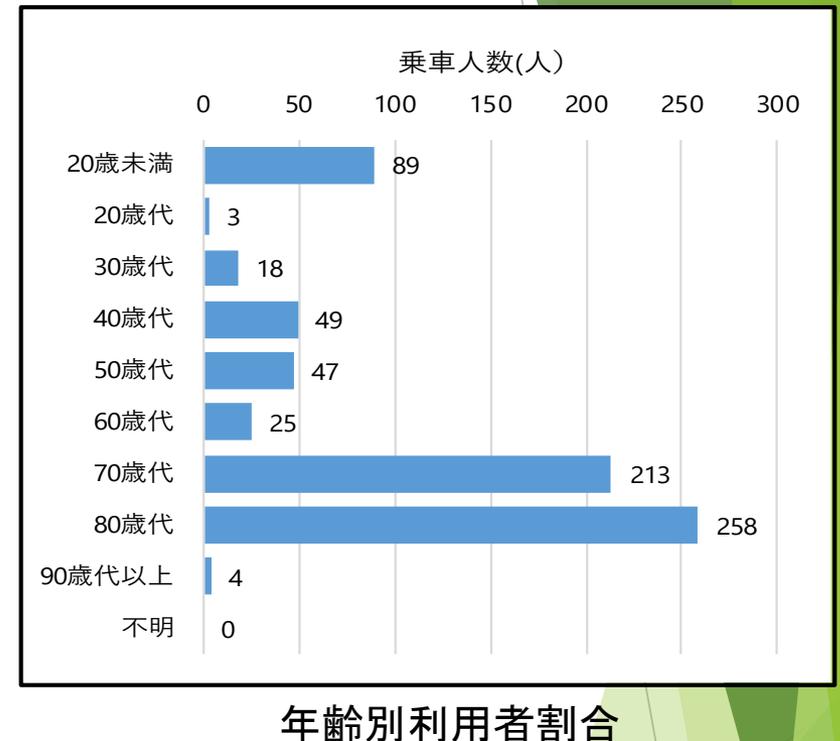
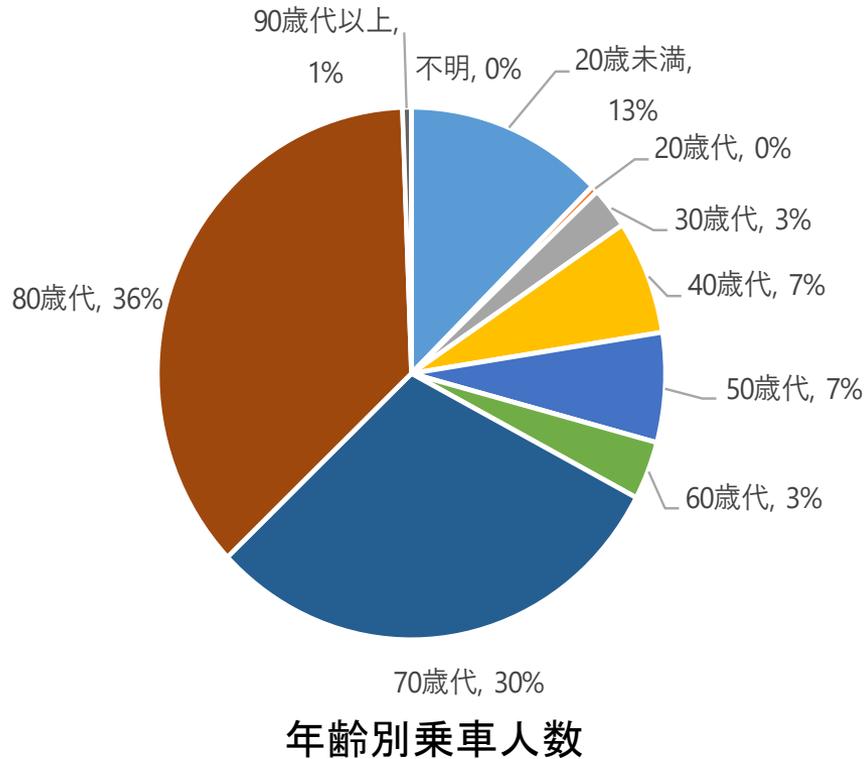
乗車時に現金でお支払い

●お問い合わせ 原村役場 商工観光課 田倉暮らし推進係
TEL.0266-75-0669(直通)
kurasu@vill.hara.lg.jp

実証運行のため内容が変更になる場合があります
変更については随時村ホームページでお知らせします

2. 利用実績と今後

利用実績



■乗車人数は706人となっている。

■年齢別の乗車人数は、80歳代の利用者が258人、次いで、70歳代が213人、20歳未満が89人と多く、予約とほぼ同様の傾向となっている。(同乗者は予約者の年齢でカウント)

■全体に対する年齢別の利用者割合としては、80歳代が36%、70歳代が30%、20歳未満が13%で、その他の年齢層では各々10%未満となっている。

路線バスとの利用者数比較(延べ利用者数)

通年(4月～3月分)

単位:人

	R3	R4	差分
原村循環線 セロリン号	11,220 (5,975)	11,092 (5,062)	▲128 (▲913)
穴山・原村線	6,565	5,653	▲912
合計	17,785	16,745	▲1,040 (▲1,825)



※()内は通学通勤支援便を除いた日中の路線のみの場合

実証運行期間(11月～5月分)

単位:人

	R3	R4	差分
原村循環線 セロリン号	6,070 (3,107)	6,049 (2,754)	▲21 (▲353)
穴山・原村線	3,646	3,053	▲593
合計	6,753	5,807	▲614 (▲946)



参考
のらざあ利用者706人

※()内は通学通勤支援便を除いた日中の路線のみの場合

アンケート調査

令和4(2022)年11月16日(水)～11月30日(水)

右図は、買物、通院、通勤・通学のそれぞれの交通手段に関するアンケート結果

自動車を利用する方(送迎等を含む)の割合は下記のとおり

買い物: 93.8%

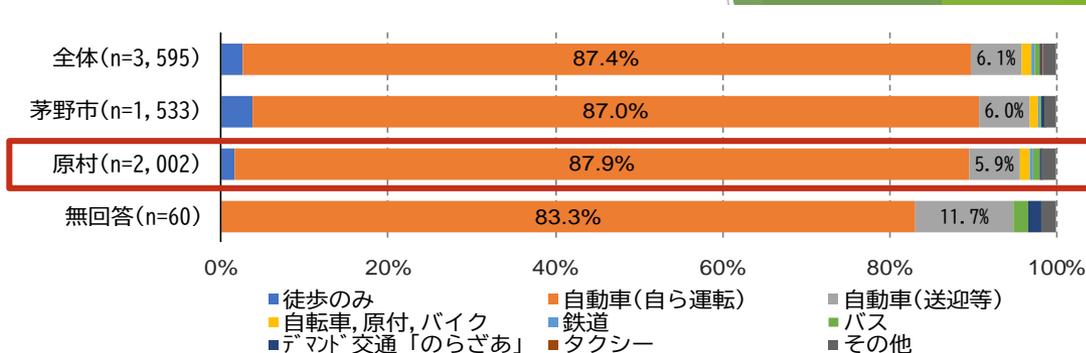
通院: 93.5%

通勤・通学: 88.7%

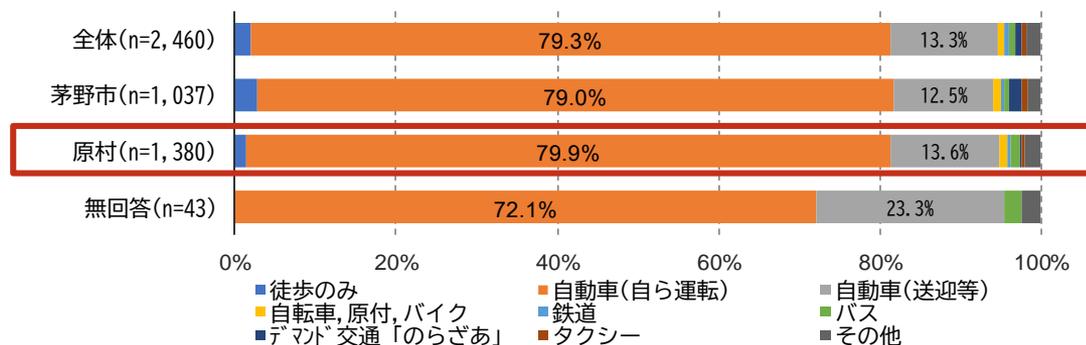


村内の移動手段の約9割は自動車によるもの

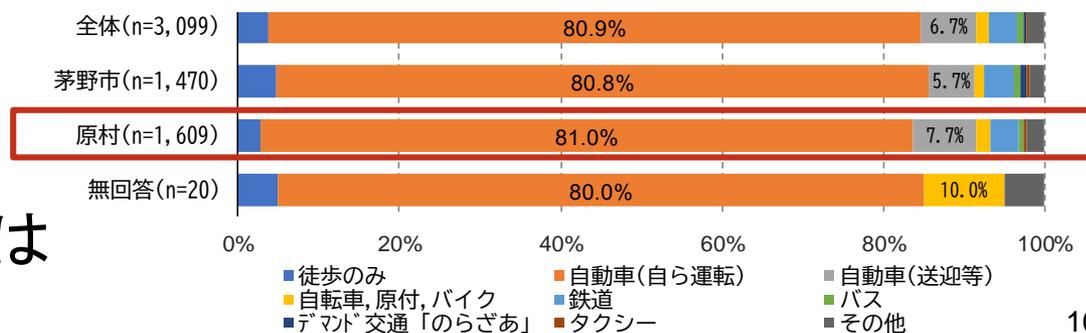
買物の交通手段



通院の交通手段



通勤・通学の交通手段



アンケート調査

令和4(2022)年11月16日(水)～11月30日(水)

■右図は、最近1か月の公共交通の利用状況に関するアンケート結果

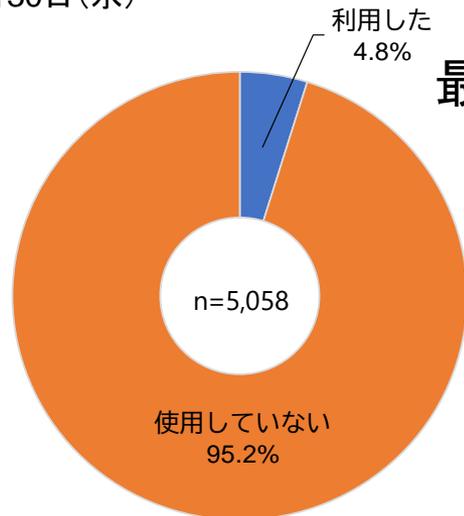
使用していない

全体 95.2%

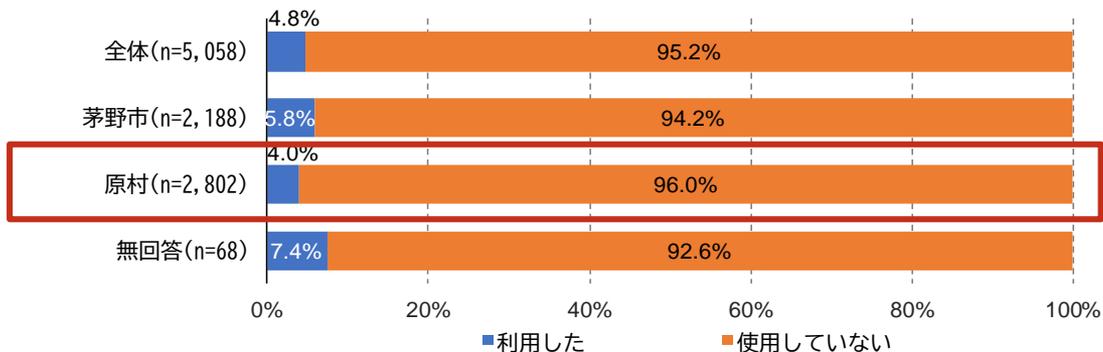
茅野市 94.2%

原村 96%

最近1か月の公共交通の利用状況



項目	全体	茅野市	原村	無回答
利用した	245	127	113	5
使用していない	4,813	2,061	2,689	63
合計	5,058	2,188	2,802	68



公共交通を現時点での生活の中で必要としている割合は低い

アンケート調査

令和4(2022)年11月16日(水)～11月30日(水)

■公共交通に対するご意見(一部抜粋)

・親や自分自身が高齢になり、車の運転が危険だと感じた時、公共交通がもっと気軽に誰でも分かりやすく活用できるようになっていたら嬉しいです。

【原村、中新田、30歳代】

・今は自家用車があり自分で運転できるため必要性を感じないが子どもが高校へ通うようになったり、自分たちが高齢になったりした時には必要になると思う。又、地域の高齢者には必要だと思う。

【原村、ハッ手、40歳代】

10年後、20年後も原村に住み続けていられるよう公共交通の維持発展をよろしくお願い致します。

【原村、やつがね、50歳代】

・買い物、通院はもちろん、ゴミ出し、郵便出しまで、何をするにも自動車がなければできません。車の運転ができなくなったら、住み続けられない現状のため、将来不安です。

【原村、原山、60歳代】



全体のご意見の約4割が、将来的な公共交通の必要性について言及

今後

<従来の公共交通に対する考え方>

固定ダイヤや固定路線の制限により、村内を走るバスの利用が低迷している.....
それに伴い、公共交通維持にかかる経費が年々増加.....

どんどん利便性を上げ、利用者の増加を図る。

AI乗合オンデマンド交通「のらざあ」実証運行を終えて.....

実績やアンケートから現状の公共交通は限られた需要であることから、利便性を上げて利用者を増やしていくことよりも、“**将来に向けて**”いかに利便性が高い公共交通を“**担保**”していけるかが重要となる

したがって、だれでも突発的に公共交通を必要とする立場になり得ることから、

公共交通とは.....



すべての住民にとっての持続可能なライフライン

3. 本格導入に向けて

- ① エリア設定
- ② 運行日・時間
- ③ 乗降場所
- ④ 運賃
- ⑤ 交通体系

① エリア設定

エリア設定について

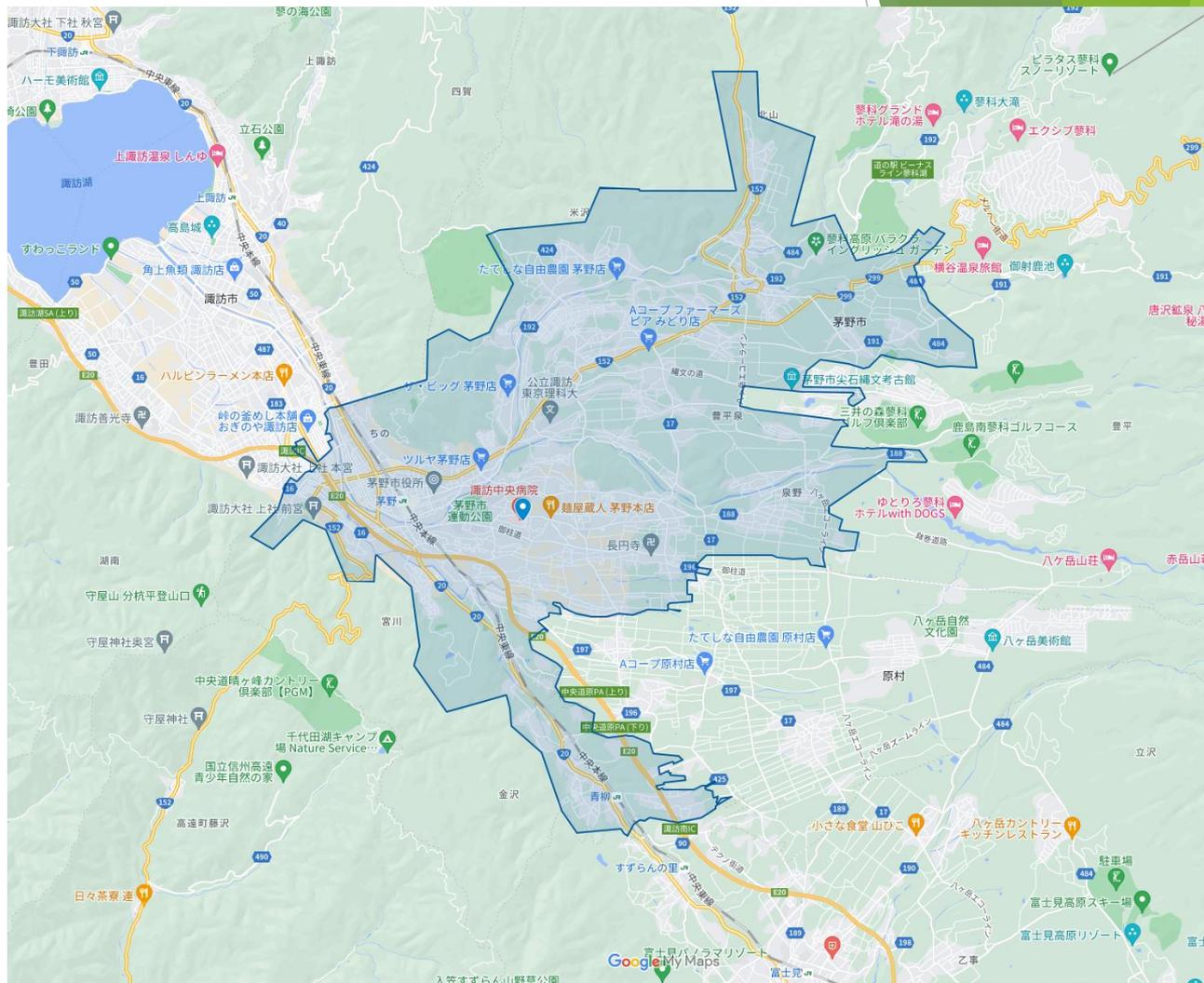
茅野市エリア

■ 運行エリアは茅野市の令和4年9月30日で廃止となった13バス路線の運行エリア

■ 三井の森管理センターとチェルトの森管理事務所は特定地点として乗降できますが、別荘地内の多くはエリア外

■ 白樺湖、蓼科湖、横谷峡、麦草峠、北八ヶ岳ロープウェイ、渋の湯、美濃戸はエリア外

■ 蓼科湖周辺もエリアへ含める意向



エリア設定について

■ 運行エリアは村内及び特定地点。

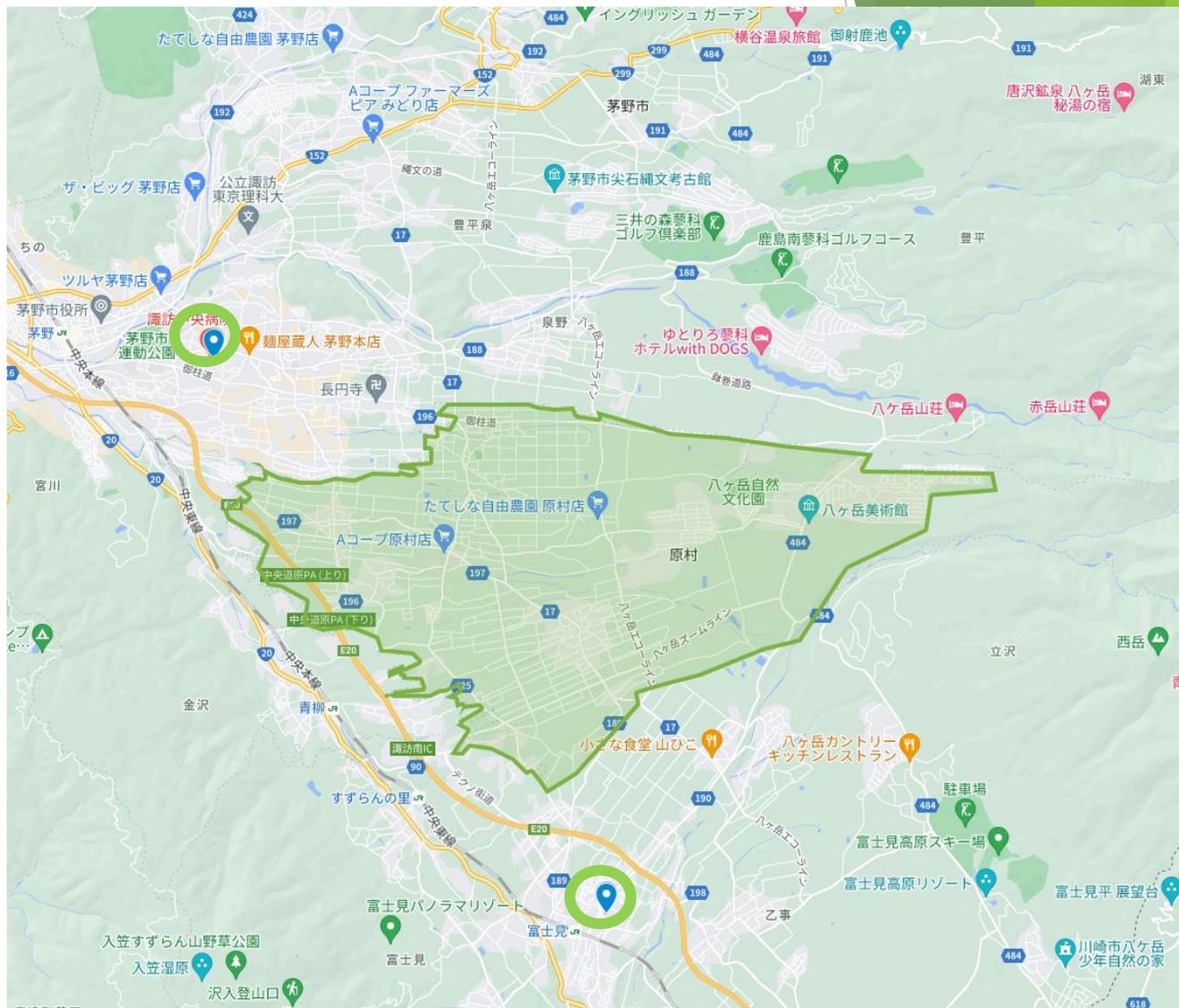
■ 三井の森、四季の森、丸山の森管理事務所は乗降可能。

■ 村外への特定地点として諏訪中央病院、富士見高原病院で乗降可能。

■ エリア内を車両2台で運行、セロリン号と併用する利用者も存在。
仮想停留所を絞ったことで、利用者とドライバーがマッチ。

■ 駅へは現時点で接続していない。

原村エリア (実証運行時点)

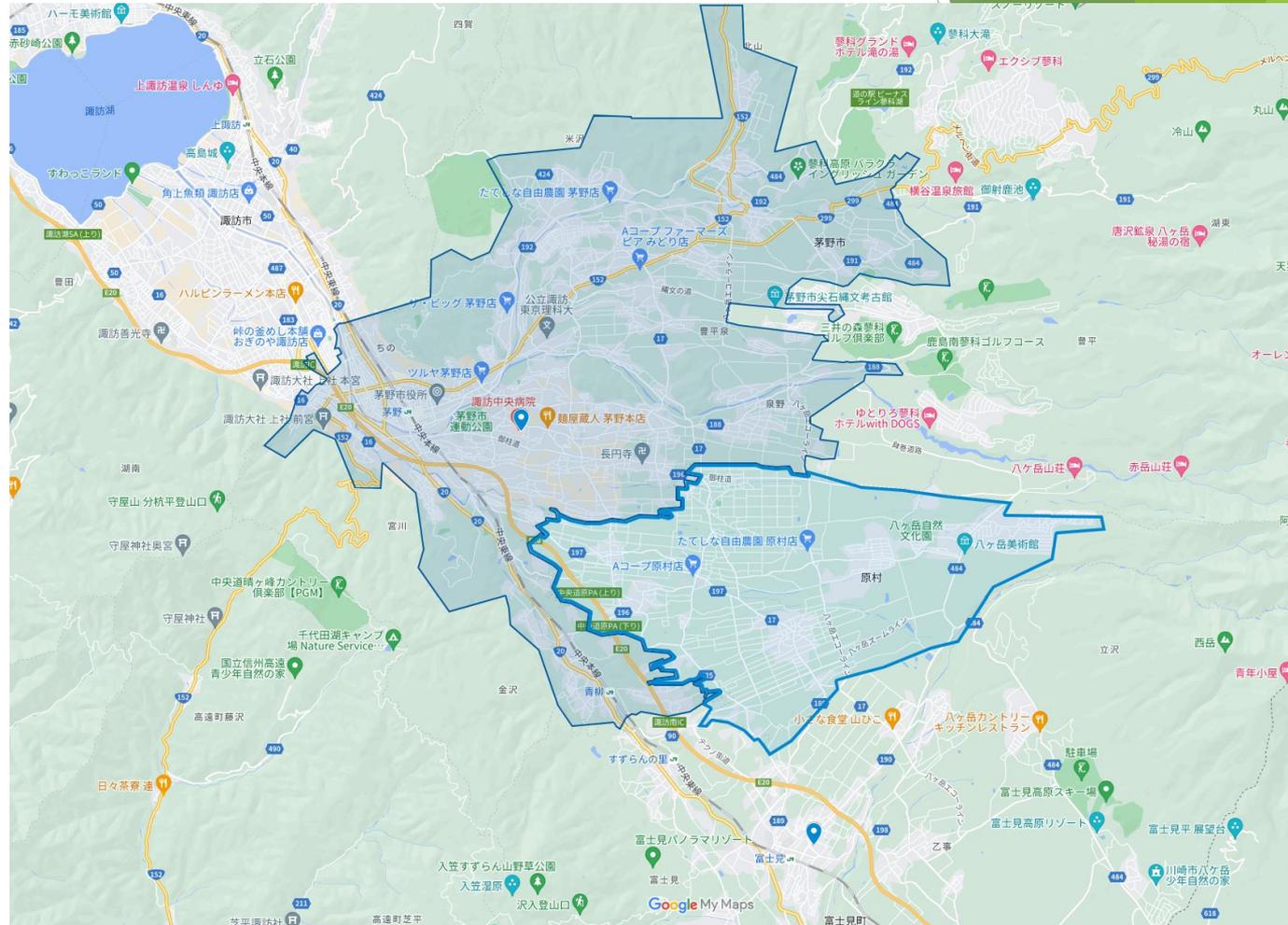


エリア設定について

- 運行エリアを一体化
- 茅野市エリア及び原村エリアの範囲で乗降可能
- シームレスな相互乗り入れを目指す
- エリア内を車両10台(推定)で運行
- 懸念点
利用者の割合を鑑みると原村で予約が取りづらくなる可能性あり
富士見町への利便性も要検討



将来的に目指すエリア



段階的な導入が必要

エリア設定について

段階的エリア

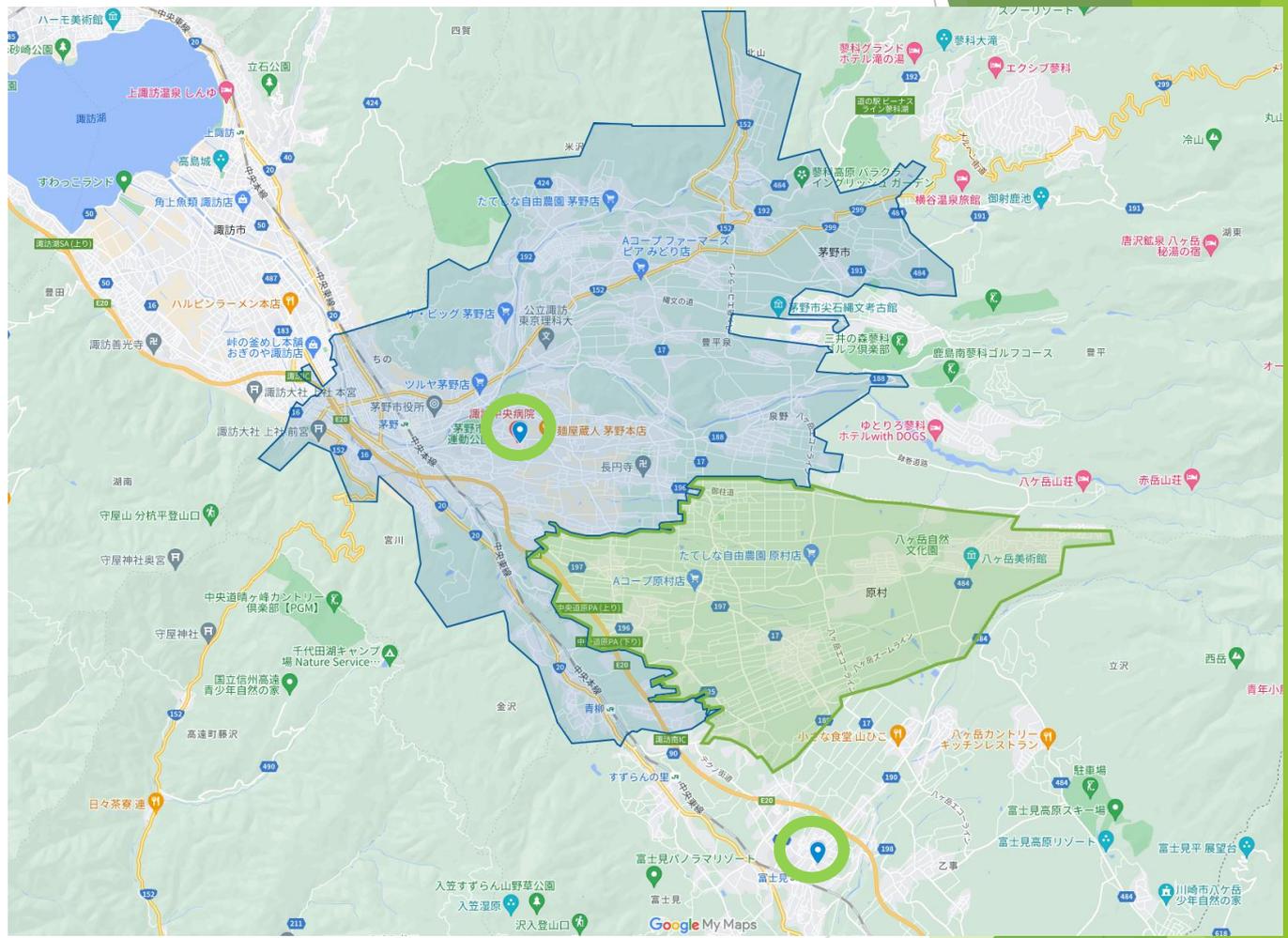
■ 運行エリアは実証運行時を継承。

■ 村外への特定地点として諏訪中央病院、富士見高原病院で乗降可能。

■ 原村エリアで車両2台を占有し運行可能。

■ 原村エリアの輸送を確保しつつ、運用状況に合わせて、車両台数や特定地点の変更が可能。

※経費負担割合の明確化



②運行日・時間

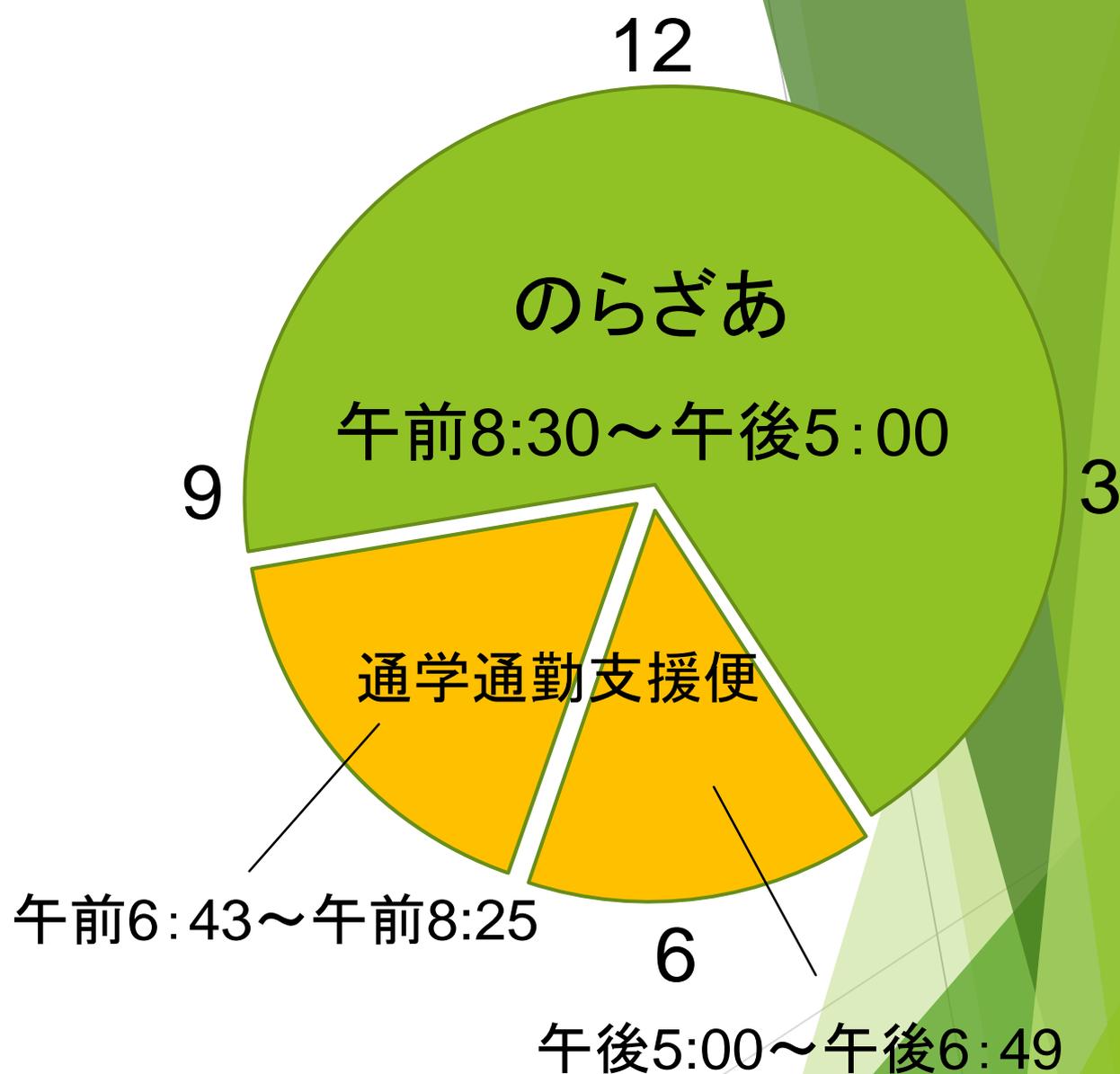
運行時間

■原村循環線(セロリン号)の利用者数が少ない日中の時間帯を「のらざあ」へ置き換え、朝夕の通学支援便は従来どおり定時定路線で運行

■通学通勤支援便の利用者実績は日平均20人であり、原村循環線(セロリン号)全体の47%を占める利用割合(令和5年3月31日時点)

■通学通勤支援便の主な利用目的は、駅への接続であるため、定時定路線が望ましい

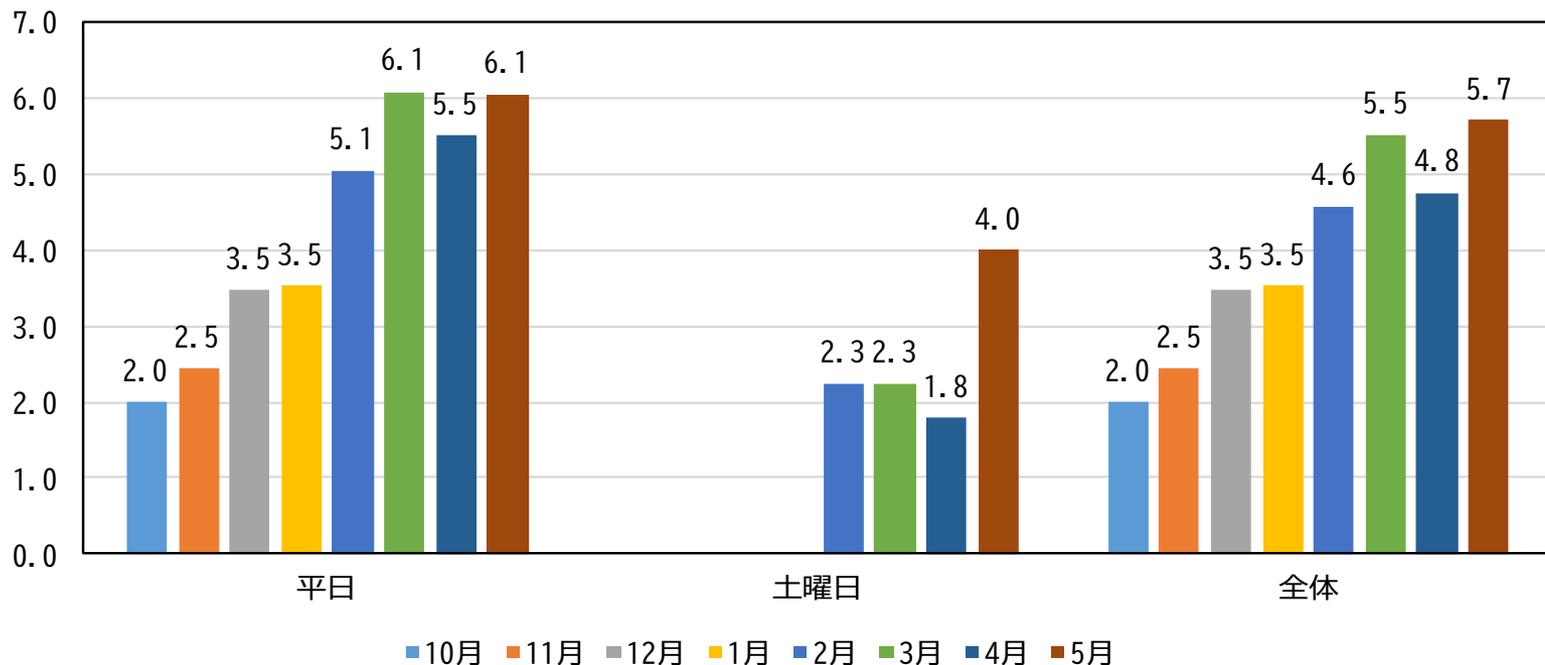
■通学通勤支援便については、通学臨時便(小中学生用)との連携や段階的なダイヤの見直しを想定



運行日

月別日平均乗車人数の推移 (令和4年10月31日～令和5年5月31日)

乗車人数(人)



■運行日は、平日のみを想定

- ➡ 休日運行における利用が平日の利用を上回る予定であったが上記の図のとおり下回っており、費用対効果が低い
- ➡ 日中の移動については、家族や親戚などのマイカー等を利用して移動をする方が多い(観光客を含む)
- ➡ 休日運行＝ライフラインと判断することは難しい

③乗降場所

乗降場所

■右の表は、実証運行期間中の主な乗降場所。(5回以上の利用実績のみ)

19/48箇所が新設したバス停。
⇒公共交通空白地帯解消へ

①実証運行時のバス停(既存のバス停及び人口分布図や高齢者世帯分布図から乗降場所を設定)

②富士見方面分(アグリモール、西友、富士見駅、綿半Jマート)

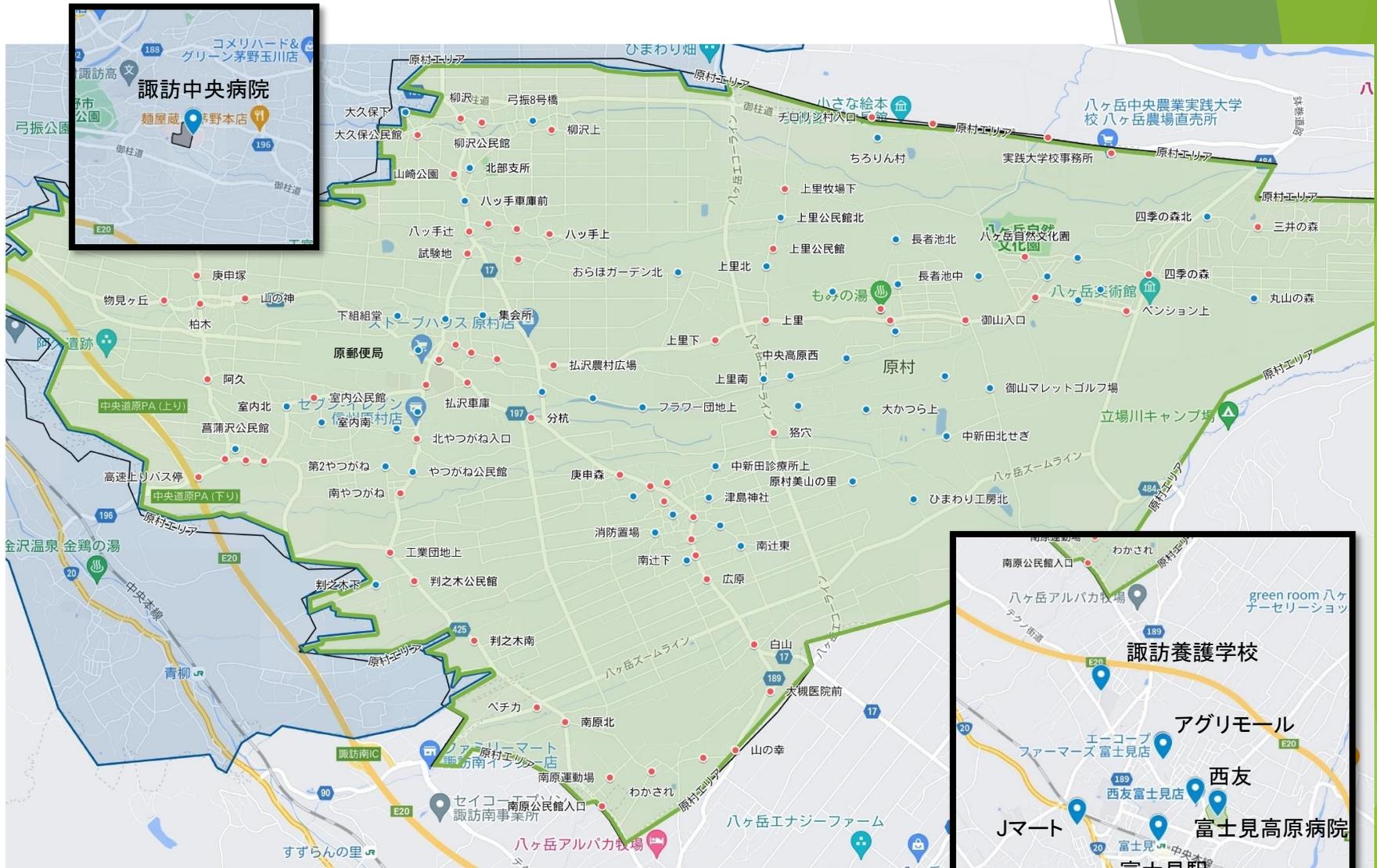
③要望(Aコープ原村店、諏訪信用金庫 原支店、中央公民館等)

■従来のバス停設置に比べ、仮想バス停のため、追加や廃止処理が柔軟に対応可能。

主な乗降場所	乗降者数
諏訪中央病院	338人
原村役場	100人
もみの湯	91人
長者池北	74人
縦の木荘グラウンド	66人
地域福祉センター	52人
御山入口	50人
ハッ手接骨院	45人
山崎公園	37人
原村郵便局 (原郵便局)	37人
四季の森	31人
富士見高原病院	30人
八ヶ岳神社	29人
イツミ下	28人
ペンション下	26人
高速上りバス停	22人
八ヶ岳自然文化園	19人
北部支所	17人
丸山の森	15人
御山マレットゴルフ場	15人
薬師堂	13人
試験地	12人
山ノ神	12人
中新田診療所	12人

縦の木荘グラウンド西	12人
物見ヶ丘	11人
菖蒲沢	10人
ペチカ	10人
たてしな自由農園	10人
上里牧場下	9人
ひまわり工房北 (美山の里付近)	8人
南やつがね	8人
上里北	8人
四季の森下	7人
消防置場 (六地藏付近)	7人
三井の森	7人
おらほガーデン北 (たてしな自由農園西側)	7人
山乃幸	6人
縦の木荘	6人
大かつら下	5人
ハッ手公民館	5人
四季の森北	5人
ペンション上	5人
弘沢上	5人
第一ペンション上	5人
室内南	5人
弘沢公民館	5人
郷土館北	5人

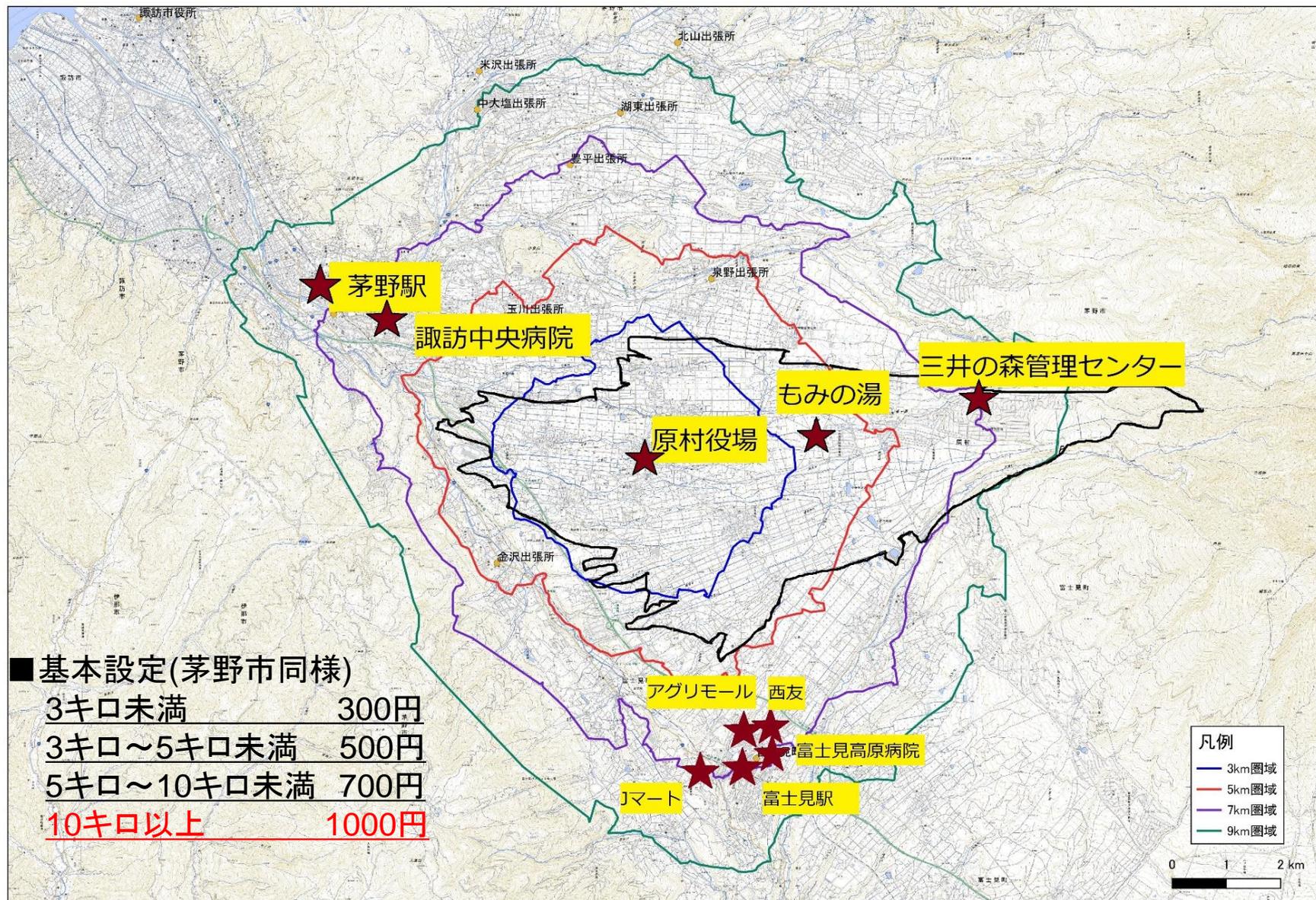
■乗降場所(仮想バス停) 想定



上記に加え、Aコープ原村店、諏訪信用金庫、中央公民館を新設予定

④運賃

運賃



⑤ 交通体系

「のらざあ」導入後の2次交通について

茅野方面へのアクセス

■穴山・原村線(2次交通)による駅へのアクセスを見直し、役場を駅(ハブ)化

⇒バス停の数、運賃、ルート、ダイヤなどを茅野市と協議しながら最適化を目指す

■のらざあ(3次交通)を使い、役場を起点としながら茅野方面への移動を促す

■穴山・原村路線との乗り継ぎをアプリ内で表示する。



■ 詳細

① 運行開始時期 令和6年2月予定

② 車両 運行車両2台(ワゴン型)

③ 運行エリア 村内及び隣接する市町の主要施設(現在の路線バスの運行エリアはカバー)

④ 運行時間 8:30~17:00

⑤ 運賃 距離別

(3キロ未満300円 3キロ~5キロ未満500円 5キロ~10キロ未満700円 10キロ以上1000円)

⑥ 運行事業者 諏訪管内の交通事業者

⑦ 運行システム Via Mobility Japan

⑧ 登録・予約方法 (登録)アプリ、電話(コールセンター)

(予約)アプリ、電話(コールセンター)、即時配車及び1時間前~1週間後

⑨ コールセンター 諏訪管内の業者または会計年度任用職員

⑩ 停留所 基本的には実証運行時の設定を継承、適宜増設

⑪ 決済方法 現金・クレジットカード

⑫ 割引 割引は茅野市と同様(6P参照)

■ 要望事項に対する再編内容との比較

①茅野駅富士見駅などの鉄道へのアクセス

⇒対応予定(29P、30P参照)

②1時間前からの予約制限(病院の待ち時間が読めない等)

⇒予約制限の時間(パラメーター)は変更可能であり、利用及び乗合発生の実績次第で茅野市と協議しながら即時配車へ向けて検討

③車両の再検討(セダン型では乗りづらい)

⇒対応予定(31P参照)

④バス停まではいかれないので自宅まで送迎してほしい(足が悪い、持病あり)

⇒福祉輸送サービスで対応可能な方との棲み分けが必要

交通体系維持の観点から利用実績と経費のバランスを考慮し、交通事業者(タクシー)と協議した上で慎重に判断

⑤仮想バス停がわかりづらい

⇒全体の約3割が目印無し、7割はセロリン号のバス停有り

アプリの普及拡大、適宜変更可(目印がある場所、待機しやすい場所の選定等)

⑥Aコープ原村店への仮想バス停設置

⇒対応予定(24P参照)

⑦高齢者へはルールやアプリ操作が難しいので(独居など家族がいない場合)支援が必要

⇒地区説明会だけでなく団体、個人からの要望があれば説明会を開催予定、民生委員や医療機関と連携し、支援拡大を図る

※アプリ予約のうち約3割が60歳以上

⑧隣町(茅野・富士見)の他の医療機関ルートもあるとうれしい

⇒本格導入時は諏訪中央病院、富士見高原病院を設置し、その他については実働後に利用実績次第で検討

特定地点の増加＝車両台数の増加(経費増加)であるため慎重に判断

⑨本格運行までの間に使い方を忘れてしまうのではない心配

⇒既登録者を本格運行時も継承するため、事前登録の必要はなし
改めて説明会や周知を徹底

⑩別荘地の移動手段の確保(ラストワンマイル問題)

⇒各管理事務所へは設置(茅野市同様)、利用実績の推移次第で仮想バス停の増設を検討、またはボランティア団体や自治会の互助活動で補てんも検討

基本的には、一部別荘エリアが茅野市と重複していることから連携して対応していく方針

4.スケジュール

